



弘大農学部同窓会会報

第 11 号

平成元年 6 月 30 日 発行
 発行 弘前大学農学部同窓会
 TEL. 0172-36-2111
 振替 盛岡 4-564 番
 印刷 青森コロニー印刷



今、わが弘前大学 農学部はかわります

同窓会会長 岩井 邦彦
 (弘前市都市計画部長)

農学部の卒業生は、ついに3千人を超えました。

私は、去る3月23日の大学合同の卒業式に招かれ、東野学長の式辞を感銘深く拝聴しました。

そのあとの農学部卒業修了生同窓会歓迎パーティーの会長としてのお祝いの言葉の中で最近、日本を自由と公正の通用しない特殊な国とみなす空気が広がっていることを憂い、21世紀の主役を担うべき若い人達に、わが国が果たすべき責任や、国際感覚、国際基準での公正な行動を訴えました。

そのためにも、明確な意図を持ち、その意図をきちんと皆んなに知らせ、かつ共感を得ることができるようにならなければならないとも申しました。

ところで、今年度の農学部受験生のための紹介パンフレットが、大学院生や若手教官によって発行されましたが、その表紙には、

「今、私たちはかわります。」あなたとともに弘前大学農学部とあります。

農学部は、今年度から大きく変わりました。岩手、山形、弘前の3大学の農学部からなる岩手大学連合大学院博士課程が発足し、3学部交流と学位取得の途が開かれました。

又、かねてより、地元青森県の弘前大学拡充期成会(会長県知事)が強く要望し、加え

て農林省東北農政局が構想している、学術、技術、情報機能高度化の一環として、北東北農林バイオテクノロジー研究開発拠点の一つとなる弘大農学部の大講座制移行、大中改組を伴う整備拡充が新年度から認められましたことは、重ねての慶びであります。

これによって、従前の4学科が、生物資源学科、農業生産学科、農業システム工学科、の3学科、7大講座に生れかわりました。

その実現に当って、その裏には、田辺学部長はじめ全関係者のご理解と熱意が、最後に実って、平成元年度の政府予算の復活折衝で要望通り認められたのでありまして、そのご苦勞に対して、心からの啓意とお礼を申し上げます。

実は、同窓会としても、大きな関心と期待をもって、以前から見守っていたのでありまして、額は小さくても、運動費の一部を役員会の総意賛同を得て、応分の拠出をさせて頂きました。

そのことも併せてご報告いたしておきます。

なお、今年は、2年に1度の同窓会員名簿を発行する年に当たっております。

これまで積み重ねてきたデータは、市内の印刷業者のコンピューターに入力されており、随時異動の連絡がありしだい訂正され、いつでも利用できるよう保管されております

が、この2年間には、相当の異動があり、職場や住所が変わった方が多いようですので、事務局担当幹事は大変苦勞しております。

できるだけ正確な名簿作成のため同窓生各位のご協力をお願いいたします。

連絡は、直接同窓会事務局宛ハガキでもよし、又は全国各地（県内支部としては、今年から南部支部が三八・上北の2支部に分かれ

たため計7支部、県外には北海道、関東、岩手、秋田、山形、福島の6支部）にある13の支部幹事等を経由してでもけっこうです。

是非ともご一報くださいますようお願いいたします。

全国各地でご活躍の同窓会員各位のご多幸ご健勝をお祈り申し上げます。

卒業おめでとう

去る3月23日元年度の卒業式が行われましたが、同窓会は卒業された129名の皆さんを新しく正会員として迎えるために、特別会員の照井陸奥夫、伊東豊治両先生をはじめ、多くの御来賓を迎え盛大な歓迎会を催し、農学部長はじめたくさんの方からお祝いと励ましの言葉を頂きました。また新正会員を代表して、藤本圭子さんと落合賢一君から御礼と決意の言葉がありました。



祝 卒 業

農学部長 田 辺 良 則

御卒業おめでとう！農学部を代表して心からお祝い申し上げます。

皆さんが、農学部に入學してこられて、最初に目に止められたのは、何だったでしょうか。あるいは、農学部玄関に向かって左方にある記念彫刻かも知れませんね。その名は「望蒼天」。青空に望むであり、春の空に望むでもあります。西南の空に向かった頂点の四角い平面に十字の深い溝が彫られてあります。そこに何を見るか。人様々でありましょう。私は、田の字を読み、水田を思い、溝によって四つに区切られた一つ一つに、天・地・農、天と地の恵み、人とその営み・万業の根本としての農業を見るのであります。

天と地の恵みと人の営みが和合して人類に有用な財貨・命の糧・富を作る。その最たるものが農業であり、その故にこそ、古来「農は国の本、国の礎」と言われてきたのであります。もっとも、多くの場合、言われるほど

に農業農民が大事にされてきたとは思われませんが、しかし今ほど農業農民、特に日本の農業農民が軽んじられ疎んじられている時代はなかったように思います。

人智が発達し生産力が高まれば、農業生産分野は、少ない働き手で間に合うようになるのは当然であります。社会的分業における労働力配分が如何に少なくなろうと、それは農業を軽視する理由にはならないのであります。まして今日、殺虫剤汚染の輸入小麦で餌付けされた高崎山の猿の奇形児、港に野積みされ「それでも食べますか。」とショックを与えた輸入農産物など、他国任せの無責任態勢が、如何に危険極まるものか、皆さんはよく御存知であります。農業農学を学んだ皆さんが、如何なる所にあっても、農業農民殊に日本の農業農民を大切に下さることを、そしてそのことが自分自身の健康を守り、自分自身を大切にすることになることをお忘れな

ならないよう、切に望みます。

午前の卒業式の「告示」において、学長は、いま世界が自由と民主主義に向かって大きく動いていることを示されつつ、自主独立の自由人として、責任と勇気のある決断をもって生きて行かれることを要請しました。まさに世界は、かつての何十年何百年にも相当する早さで動いております。動きの中心は、自由への自由を求めてのものであります。自由の観点からすれば、人類の歴史は、自由への歴史、制約、束縛からの解放の歴史であったのであります。飢餓からの解放、自然の脅威からの解放、奴隷性からの解放、封建制からの解放の歴史でありました。この自由・解放への流れを妨げるものが何であろうと、資本主義の名を冠していようと、社会主義・共産主義の名を冠していようと、それは清算されなければならないし清算されるということが、いま壮大な事実をもって証明されつつあります。

本来、資本主義も社会主義も共産主義も、この自由・解放を、押し進めるもの、戦い進めるものであります。資本主義は封建の鎖を断ち切り自由の旗を掲げて発展したし、資本主義が独占に軟化して自由の旗を投げ捨てれば、その旗を拾い高く掲げて進むのが社会主義・共産主義でなければならないのであります。その「社会主義・共産主義」が、自由を奪い民主主義を抑圧し、民衆に鉄砲を向けるとは何事ぞ、と戦い進んでいる壮大な事実を、我々は見ているのであります。

そこには、殺戮も陰謀もあって正邪入り交じる悲しい現実がありますが、人間発達の歴史であり、その歴史を目の前の現実として見ている、大変な勉強をしているのであります。これは大変な時代を生きている、ある意味では有難い時代を生きているのであります。

この疾風怒涛の壮大な時代を生きて行くのでありますから、卒業生の皆さん、どうか気宇壮大に生きて行って下さい。しかし気宇壮大に生きるにも、無手勝流では駄目です。皆さんは卒業研究をなしとげられました。課題設定から問題処理の方法とその適用・分

析・総合・結論に至る全過程を遂行されました。これは、大学生活の総決算であり、ある意味で、一芸に達したといえるでしょう。「一芸に達すれば万芸に通ず」であります。皆さんが、皆さんの卒業研究で学びとられた研究の方法・問題解決の方法を、これからの生活・万芸の中で応用・適応して、問題に取り組み解決して行って下さるよう期待致します。

ロマン・ロランはその著「ジャン・クリストフ」の扉に、

どの国の人であれ
悩みそして戦っており
やがて勝つであろう
自由なる魂たちに捧

と記しておりますが、この激動の時代にあつて、皆さんが、自由独立の自由人として、自由と民主主義のためのこの「自由なる魂たち」の戦列に参加されることを期待致します。

卒業式の最後に歌われた「蛍の光」は「幸来とばかり祈るなり」で終わりましたが、わたしもまた、万感の思いを込めて、皆さんに「幸来とばかり」お祈りして、ご挨拶を終わります。



新しく迎えた会員の皆さん

農学科 (24名)

農学コース (15名)

大和田 敏 (作物) 青森県下北地方農林事務所
 小菅 孝一 (作物) 弘前地区農業改良普及所
 館山 元春 (作物) 青森県農業試験場 藤坂支場
 前田 一春 (作物) 弘前大学大学院農学研究科
 渡辺 裕恵 (作物) 神奈川県農政部
 小寺 和広 (作物) 東北農政局相坂川左岸農業水利吹越台地開拓建設事務所

境谷 栄二 (育種) 青森県農業試験場
 仲篠 真介 (育種) 弘前大学大学院農学研究科
 原 久子 (育種) 弘前大学大学院農学研究科
 原田 聡子 (育種) ㈱広貫堂
 大東 卓也 (育種) 坂田種苗㈱
 高橋 静雄 (畜産) 農林水産省畜産局
 中村 義人 (畜産) 青森県八戸地区農業改良普及所

名古屋恵介 (畜産) ホクレン農業協同組合連合会
 古川 貴朗 (畜産) ホクレン農業協同組合連合会

経済コース (9名)

葛西 憲穂 (経営) ㈱東奥日報社
 三橋和賀子 (経営) 日鉄教育システム㈱
 秋田 弘行 (流通) 青森県農協中央会
 長浜 貴弘 (流通) 青森県農協共済連合会
 本所 和久 (流通) 滝川市役所
 佐藤 元 (流通) 青森銀行大館支店
 一戸 崇子 (流通) ㈱ビジネスサービス
 熊野 貴章 (経済)
 黒谷 伸 (経済) ぜんこく農業会議所

園芸化学科 (35名)

今泉 光由 (園利) 弘前大学大学院農学研究科
 小松 治仁 (園利) 千秋薬品㈱
 島根 正則 (園利) 日本ハム㈱
 籾内 収 (園利) NISSEI SANGYOU CO., LTD
 高田 義則 (園利) 弘前大学大学院農学研究科
 西谷亜希子 (園利) 弘前大学大学院農学研究科
 米谷 祥子 (園利) NEC日本電気通システム㈱

宮本 裕久 (園利) 日本コンピュータシステム㈱

五十嵐俊成 (生化) 北海道立上川農業試験場
 池津津 祐 (生化) いわき市教育委員会
 漆原俊一郎 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 奥崎 正明 (生化) 月島食品工業㈱
 葛西 孝治 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 中川 徹 (生化) 吉田産業
 原田 昌晋 (生化) 弘前大学大学院農学研究科
 松江 俊英 (生化) 青森県工業試験場
 降旗 昭紀 (生化) 山之内製菓㈱
 目由紀美 (農利) 山崎製パン㈱
 荒井 大輔 (農利) 雪印乳業㈱
 小熊 一宏 (農利) リンガーハット㈱
 片岡 秀樹 (農利) ソントン食品工業㈱
 井上 真吾 (農利) 太子食品
 佐藤 直 (農利) 弘前大学大学院農学研究科
 中川 昇 (農利) 宝幸水産㈱
 藤本 圭子 (農利) 東京農林規格検査所 仙台支所

佐藤 俊之 (農利) 八戸市立北陵中学校(臨採)
 坂谷 誠治 (土肥) 弘前大学大学院農学研究科
 入江 俊明 (土肥) ㈱エバラ食品工業
 大沼 秀樹 (土肥) ㈱ニチレイ
 佐藤 均 (土肥) コープケミカル㈱
 相馬 亮子 (土肥) ファンシーツダ㈱
 仲村 弘子 (土肥) 弘前大学大学院農学研究科
 水間 剛 (土肥) 弘前大学農学部研修生
 渡辺 典子 (土肥) ㈱ボンパドウル
 児玉 修一 (土肥) ㈱東北日本電気ソフトウェア

農業工学科 (30名)

農業機械コース (12名)

竹下 昌弘 (機械) ㈱ダイニック
 松山 啓介 (機械) ㈱中道機械
 森山 豊 (機械) ㈱富士通青森システムエンジニアリング
 横山 健 (機械) ㈱神戸製鋼所
 横山 博 (機械) 尻屋小学校
 岡川 和弘 (動力) ㈱TBCグループ TBC企画広報室
 鎌田 紀親 (動力) 弘前市職員
 小柳 房雄 (動力) 今市市役所
 杉本 克司 (動力) 佐竹製作所㈱

対馬 弘人 (動力) 本田技研工業(株)
西川 忠行 (動力) 南星中学校 (臨採)
吉岡 幹夫 (動力)

農業土木コース (18名)

一戸 孝之 (造施) 農用地整備公団
佐藤 徹 (造施) N T T
高橋 忍 (造施) 日本舗道(株)
中野 徹 (造施) 株式会社竹中土木
山本 理史 (造施) 青森県西土地改良事務所
八幡 秀彦 (造施) 長農県上伊那地方事務所
土地改良第一課
宮腰 良昭 (造施) 碓井コンサルタント
五十嵐 悟 (水利) 東北地方建設局胆沢ダム
工事事務所調査設計課
笹木 裕治 (水利) 東芝プラント建設株式会
社バイオ研究部
下平 達也 (水利) 愛知県豊橋農地開発事務所
佐々木長人 (水利) 秋田県土地改良事業団体
連合会
森谷 英 (水利) 日本理水設計(株)
相原 憲一 (農地) 青森県企画部統計課
五十嵐久也 (農地) 日本舗路(株)北海道支店
長内 誠志 (農地) (株)富士通青森システムエ
ンジニアリング
川口 浩 (農地) 青森県三戸土地改良事務所
佐藤 善文 (農地) 北海道開発局網走開発建
設部農業開発第一課
立石 信次 (農地) 北海道開発局

園芸学科 (36名)

青木 政晴 (蔬花) 北安曇野改良普及所
白馬支所
金子富美子 (蔬花) 丸善産業(株)
斎藤 睦恵 (蔬花) 十和田市立東中学校
坂本 正樹 (蔬花) (株)アベックス
角田 雅俊 (蔬花) コメリ・ハードアンドグ
リーン小野店
丹羽 裕樹 (蔬花) 玉野総合コンサルタント(株)
藤井 正樹 (蔬花) ホクレン農業協同組合連
合会
田中 正義 (蔬花)
野呂 俊 (蔬花) 藤造園建設(株)
浅利 欣一 (果園) 平賀地区農業改良普及所
植松 伸博 (果園) 本間物産(株)
大林 勝之 (果園) 大洋薬品工業(株)
高橋 朋子 (果園) 和賀中央農業協同組合
斗ヶ澤一雄 (果園)

西館 勝富 (果園) 七戸高校 (臨採)
工藤 一 (果園)
赤坂 一幸 (植病) 弘前大学大学院農学研究科
小森 忠弘 (植病) キューピー(株)
佐藤 晶子 (植病) S I S シグマシステムズ(株)
徳田 憲泰 (植病) 昭和薬品(株)
中居 芳佳 (植病) 日糧製パン(株)
中島 宏之 (植病) 一関農業高校
星野 智士 (植病) 農水省横浜植物防疫所
三橋 泰仁 (植病) (株)ノエビア
小林 雅文 (植病) 宮城県築館農業改良普及所
磯辺 慶 (昆虫) 青森県畑作園芸試験場
岸田 光史 (昆虫) 琉球大学大学院農学研究科
北原 志乃 (昆虫) 弘前大学大学院農業研究科
木村 章 (昆虫) (株)松屋
坂本 浩 (昆虫) 福井県園芸試験場
千葉 等 (昆虫) トモノ農薬(株)
和田 茂 (昆虫)
鈴木 昭恵 (昆虫) 日立東北ソフトウェア(株)
西塚 誠 (昆虫) 弘前大学大学院農学研究科
中川 修宏 (昆虫)
平田 貴士 (昆虫) 二戸市役所

大 学 院

農 学 科 (1名)

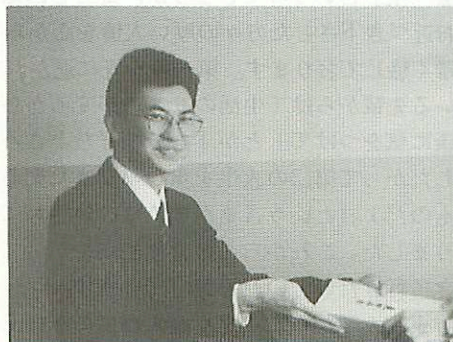
木原 誠 (育種) サッポロビール(株)植物工
学研究所

農業工学科 (1名)

木村 勇司 (昆虫) 岩手大学大学院連合農学
研究科

園 芸 学 科 (2名)

金 知康 (機械) 鯉ヶ沢地区農業改良普及所
落合 賢一 (動力) 静岡日本電気(株)



思い出を残して

平成元年度は、森敏夫先生と金須正幸先生が退官されました。多くの同窓生に対する暖かいご指導ありがとうございました。

謝 恩 の 記

森 敏 夫

時は容赦なく流れ去り、このたび65才の定年を迎えました。30年ばかりの弘大勤務の間、2千余名の学生諸君に接したことになります。その初期の卒業生は既に50の坂を越すようになったのですから、私がやめる年になったのも驚ろくに当たらないのですが、私自身まだまだ余力を残しての退陣のような気もします。

光陰矢の如しです。でも、やはり長い農場生活・教員生活をふりかえりますと、次々と限りなく思い出がよみがえってまいります。去る2月10日には、県内外から多くの同窓生が来学され、私のつたない最終講義「私の農学概論」を聴かれ、そのあと盛大な「送る夕べ」を催して下さいました。そして心あたたまる慰労と感謝のことばをいただき、ひとしおの感激で胸一杯でした。

退職したらあれもしたい、こうもしたいという思いは人一倍のものがあありますが、いまは、大きな生活の変化に戸まどいながら落ち着かない毎日を過しております。退官の御挨拶に対する返書がたくさん参りましたが、「一会一生」というのでしょうか、奇しき因縁でお近づき下さった方々の厚い人情を心から有難く感じております。第一線を既に退かれています先輩からは「生活のリズムが変わるから健康に気をつけて」とか「自分の好むところにしがって第二の人生を歩むのはまた楽しいものだよ。」という言葉が多くつけ足されておりました。これからこの言葉にあやかって生きて行きたいものだと思っています。

東北大学からまっすぐ金木農場に転任してきましたのは、雪深い昭和36年のはじめてでし

た。経験も乏しく、性格の弱い私にとっては、45ヘクタールに、イネ・ムギ・ソバ・ナタネ・リンゴに加えて、牛・馬・豚・鶏・山羊など多彩な作目を経営していた大農場の運営管理はとても荷の重い仕事でした。実習教育も初体験でしたから、緊張のしつづけでしたが、とにかく若さと責任感だけでしのいできました。はじめは、佐々木先生はじめ、先輩・同寮の諸先生に助けられたのですが、そのうち、藤野(38年卒・農機)、田口(39年卒・畜産)、君に続いて、村山(40年卒・作物)、塩崎(41年卒・園芸)の両君が専任教官として定着するに及んで大いに安心感をえました。それから30年、おかげで、全国有数の附属農場と目されるまでになったことをうれしく思っております。

藤崎での週日実習、金木での宿泊実習(農家分宿時代もあったが)、それぞれに学生の不満を身に感じながらも、私なりに精一杯やっただけです。卒業生諸君もいまはなつかしい学習の思い出として強く印象に残っているに違いありません。講義「農学概論」で強調したとおり、農業に直接ふれて、農業の本質や意義を感得し、卒業後どこにあっても「愛農のこころ」を持ちつづけてくれることを念じての実習だったので。

いま、わが家の小さな書斎の壁に、最終講義の時の記念写真の大きな額がかかげられ、集まった方々の顔・顔が見下ろしています。物あまり、金あまり、飽食の時代の到来のなかで、農業がうとんぜられ、農家が生気を失ないかけていることに深い憂いを抱えています。退職しても、農業や農学にこだわりつづ

けることをやめるわけにいかない思いがしております。写真の中の先生方や同窓の方々の多数の目が、そうした私の思いにいつまでも

はげましを送ってくれるものと思うのです。

同窓会々員諸兄姉の御健勝と御活躍を祈り退官にあたっての御礼と御挨拶と致します。

弘前の思い出

金 須 正 幸

この3月に弘前大学を退官してから、農業機械学会事務局長の仕事をしています。この事務所は埼玉県大宮市にある特殊法人の生物系特定産業技術研究推進機構(略称生研機構)の構内にあります。この生研機構は木々に囲まれた非常に環境の良いところで、私の家から歩いて15分くらいの距離にあり、毎日の運動にちょうど良い職場です。私が弘前大学に赴任したのは昭和55年(55歳)のことでしたが、それ以前はこの生研機構の前身の農業機械化研究所で多忙な毎日を送っていたのです。

事務所には2人(正確には1.4人)の女性アシスタントがいますが、非常に有能で、しかも心優しい人達です。お陰でまだ仕事に慣れない私でも、なんとか曲がりなりにも事務局長の務めを果たしています。

就任早々の4月5日から3日間、九州の宮崎市で開催された年次大会で初仕事をして来ました。そして大宮に帰ってから昨日(4月31日)まで、2カ月に1回発行する学会誌の出版に忙殺され、今日ようやく一息ついた所です。これではのんびりとボケている暇もありません。

気持ちの余裕が出来たところで、同窓会幹事の村山先生に依頼されていた原稿のことを思い出しました。そしてそれと同時に弘前での色々の出来事がほうふつとして目の前に浮かんで来ました。

弘前に行くまでは、「津軽に行ったらリンゴを毎日三度三度腹一杯食べよう」と楽しみにしていましたが、大学の実験室の前やゴミ捨て場に御用済みのリンゴが山のように捨てられているのを見てからは、金を出してリン

ゴを買う気を失ってしまいました。またスキーも大いに練習してベテランになるはずでしたが、最初の冬の雪掻きでギクク腰になってしまい、これもはかない夢に終わってしまいました。誠に心残りなことです。

弘前に行ってから、田辺先生に誘われて生れて初めて硬式テニスを始めました。60の手習いで一向に上達せず、毎春初心に立ちかえって練習をしましたが、それでも60年度と61年度には学園町テニス同好会の試合でテクニカル級第3位となりました。賞状を貰ったのは中学卒業以来実に40数年ぶりのことでした。もっともこのテクニカル級は年寄りばかりのクラスで、しかもチームが3つしかなかったのですから、あまり自慢にはなりません。

そのほか弘前での思い出は尽きませんが、これからも折りにふれ岩木山をめぐる四季の移り変わりを、懐かしく思い浮べることでしよう。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。

〔自宅〕〒331 大宮市大成町3-227

☎048-665-1463

〔事務〕〒331 大宮市日進町1-40-2

生研機構内 農業機械学会

☎048-665-1463



支 部 だ よ り

福島支部10周年記念誌「わんどのかい」発刊される。

福島支部（松本 馨支部長）は平成元年10月21日、斎藤健一教授・工藤啓一事務局幹事を招いて猪苗代町の「翁島荘」で第10回支部総会を開催しました。また10周年を記念して「わんどのかい」を発刊しました。田辺農学

部学部長と岩井同窓会会長のメッセージ、12名の同支部会員のメッセージが掲載された、思い出深い写真入りの記念誌です。同支部の活発な活動ぶりが伺われます。

南部支部が再編されるか

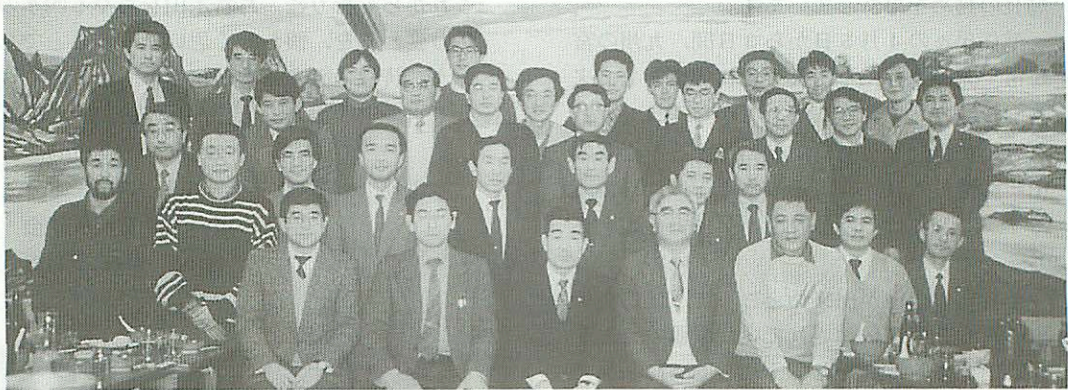
平成2年1月30日、南部支部（福井 正支部長）は五戸町の「牧場温泉」に佐々木信介名誉教授を招いて支部会を開催し、三八支部と上北支部とに再編することを決定しました。その主な理由は、会員数が180名に増加した

ことと、広すぎる地域を分割し綿密な活動をしやすいするためです。翌年の総会で承認されると2支部は新支部として発足することになります。

西北五支部13年ぶりに開催

平成2年2月8日、西北五支部（尾野 正支部長）は五所川原市の「蝶屋」で支部会を開催しました。実に13年ぶりの開催でしたの

で、出席率約50%と高く、34名の出席のもと盛大に開催されました。



訃 報

葛西孝逸氏（S34年 農経卒 朝日新聞社）は平成元年7月14日、山内誠司氏（S33年 農経卒 青森県農業経営研究所）は平成2年6月15日、飯野正和氏（S51年 植病卒 山形県西川町役場）は平成2年6月25日、長尾吉洋氏（S63年 果樹卒 西地方農林事務所）は平成2年7月4日に逝去されました。ここに謹んで御冥福をお祈りします。

同 窓 通 信

平成元年7月、須之内浩二氏(茨城県普及員)から、弘前大学農学部同窓生からなる茨城県普及員会を設立し、通信紙『常陸野』を発行したという便りが寄せられました。その第1号の一部を紹介します。

「本土の北より嵐のごとく」

去る平成元年6月3日茨城県水戸市において茨城県普及員会(仮称)の初会合を開きました。

東北地方の隣県とはいえ、本県から弘前の地を踏む者はごくわずかです。その中でも、農学部を経て、農業改良普及員としてUターンする者は、自分くらいだろうと誰もが思っていたようです。

本会は、この春、旧制弘高校歌そのままに、「本土の北より嵐のごとく」やってきた新入普及員が、梅雨前線よろしく停滞していた先輩普及員を刺激して動き始めました。

構成メンバーは下記のとおり5名ですが中堅から新人までの比較的若い年齢構成ですが、長老格の伊豆原さんを除いて、残りは2人ずつ同期採用という特徴があります。つまり、過去にもひとつの山があったということです。6年前、新採5人のうち弘大卒2名という一代派閥を形成した時期がありました。

さらに第2の特徴として本県の誇る女性農業改良普及員が2名います。(県内に全員で5名)



左から阿部知恵(元年・育種卒)、伊豆原(旧姓高木)則子(46年・土肥卒)、神原幸雄(元年・蔬花卒)、須之内浩二(58年・作物卒)、広沢 勇(55年・蔬花卒)

教 官 人 事

退 官

2. 3. 31 森 敏夫 教授(附属農場)

2. 3. 31 金須 正幸 教授(農業機械学)

新 任

1. 7. 1 長山 英男 教授(生物資源科学科)

2. 4. 1 浅田 芳宏 教授(生物資源学科)

2. 4. 1 野村 忠弘 教授(附属農場)

2. 4. 1 玉 真之介 助教授(農業生産科学科)

2. 4. 1 原田 武雄 助教授(農業生産科学科)

農学部が大講座制に改組された

総ての応用科学分野と同じく農学も時代と共に変貌し、ことに我が国の農業及び農業に関連する学部教育・研究領域は近年著しく拡大されつつあり、農学部に対する社会の要請も既往の農学教育・研究の範囲を大きく越えるようになってきました。

我が農学部は、このような時代背景の中で、従来の個々の専門分野はもちろんのこと、さらにそれらの分野を越えた境界領域や複合領域における教育を取り入れると共に、近年進歩の著しいバイオテクノロジーや情報処理などの先端技術に関する教育を充実させようと言う方針で教育・研究組織の見直しに取り組んできました。そして、これまで専門分野ごとに細分化され、とかく連携を失いがちだった農学を大講座制に改めることによって教育・研究を総合化し、効率化を図り、併せて幅広い基礎知識を持ち、応用力と創造力に富む個性豊かな人材の育成を目指すため、学部を改

組することになったのです。

その結果、平成2年度から既存の4学科（園芸科学科、農学科、園芸学科、農業工学科）19講座が、生物機能開発学、生物資源利用学の2大講座をもつ「生物資源科学科」、園芸農学、生物環境管理学、農業生産流通学の3大講座をもつ「農業生産科学科」、農業土木学、生産機械学の2大講座をもつ「農業システム工学科」の3学科7大講座に改められたのです。

平成元年度以前入学の学生は旧体制で指導を受けますが、平成2年度入学者から新体制で教育を受けることになります。したがって旧講座・教室名はまもなく消滅することになります。しかし同窓生の皆さんが指導を受けられた先生方は、在職中いずれかの大講座に所属しますから、今までどおり母校を訪れてください。それでは3学科7大講座とそれを構成する教官を紹介します。

学科	講座	職名	氏名(内線)	住所
生物資源科学科	生物機能開発学	教授	長山 英男(4621)	弘前市住吉町4 ライオンズマンション304号
		教授	斎藤 健一(4671)	弘前市松原西1丁目8-1
		教授	浅田 芳宏(4634)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-51
		教授	奥野 智且(4642)	弘前市取上1丁目17-37
		助教授	新関 稔(4673)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-16
		助教授	宮入 一夫(4643)	弘前市安原113-16
		助教授	原田 竹雄(4674)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-35
		助手	石川 隆二(4672)	弘前市茂森町32
	生物資源利用学	教授	音羽 道三(4651)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-41
		教授	中村 信吾(4631)	弘前市学園町1-1 公宿32-3-52
		助教授	原田 順厚(4622)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-44
		助教授	五十嵐康雄(4633)	弘前市松原西2丁目16-4
		助教授	斎藤 寛(4653)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-43
		助手	木村 繁昭(4623)	弘前市浜の町東4丁目3-39
	助手	青山 正和(4652)	弘前市茂森新町1丁目13-1 嶽マンションA-1-2	

学科	講座	職名	氏名(内線)	住所	
農 業 生 産 科 学 科	園芸農学	教授	奥村 實義(4711)	弘前市文京町14-11 文京マンション106号	
		教授	菊池 卓郎(4701)	弘前市松原東1丁目9-5	
		教授	豊川 好司(4691)	弘前市中野4丁目12-6	
		助教授	福重 裕康(4662)	弘前市学園町1-1 公宿32-1-23	
		助教授	奥瀬 一郎(4712)	弘前市大町3丁目10-11 道奥ビル4-D	
		助教授	工藤 啓一(4663)	弘前市安原3丁目4-14	
		助教授	嵯峨 紘一(4713)	弘前市松原東4丁目6-13	
		助教授	浅田 武典(4703)	弘前市清原2丁目8-15	
		助教授	鈴木 裕之(4692)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-15	
		助手	荒川 修(4702)	弘前市桜ヶ丘2丁目1-5	
生物環境 管理学	教授	沢村 健三(4721)	弘前市旭ヶ丘1丁目11-38		
	教授	正木 進三(4731)	弘前市学園町1-1 公宿32-3-35		
	助教授	卜蔵 健治(4782)	弘前市下白銀町16-1 ライオンズマンション弘前公園501号		
	助教授	安藤 喜一(4732)	弘前市松原西2丁目18-9		
	助教授	原田 幸雄(4722)	弘前市西ヶ丘町9-8		
	助手	藤田 隆(4723)	弘前市若党町89-1		
	助手	城田 安幸(4733)	弘前市旭ヶ丘2丁目4-42		
	農業生産 流通学	教授	田辺 良則(4682)	弘前市山崎4丁目1-4	
教授		石関 良司(4681)	弘前市学園町1-1 公宿32-3-32		
教授		神田 健策(4687)	弘前市松原東1丁目9-29		
助教授		高橋 秀直(4683)	弘前市藤代川面13		
助教授		渋谷 長生(4686)	弘前市学園町1-1 公宿32-2-44		
助教授		玉 真之介(4685)	弘前市学園町1-1 公宿32-4-11		
農 業 シ ス テ ム 工 学 科	農 業 土 木 学	教授	月館 光三(4781)	弘前市松原西2丁目18-19	
		教授	篠辺 三郎(4761)	弘前市城南1丁目6-16	
		教授	長谷部次郎(4771)	弘前市旭ヶ丘2丁目9-17	
		助教授	川越 信清(4762)	弘前市旭ヶ丘2丁目6-12	
		助教授	萩原 守(4772)	弘前市松原東1丁目6-40	
		助手	角野 三好(4783)	弘前市桜ヶ丘5丁目1-6	
		助手	工藤 明(4763)	弘前市山崎1丁目2-8	
		助手	藤崎 浩幸(4773)	弘前市松森町19-1 パストラルハイム弘前604号	
		生 産 機 械 学	教授	武田 太一(4751)	弘前市千年1丁目11-4
			助教授	戸次 英二(4752)	弘前市千年4丁目5-26
助教授	加藤 弘道(4742)		弘前市浜の町東2丁目10-12		
助手	福地 博(4743)		弘前市文京町19-1 公宿27-70		
助手	高橋 照夫(4753)		弘前市松原西2丁目17-15		

新しい先生を紹介します



茨城は日立市の生まれ。北に憧れて旧制弘前高校に入り、青春の一時期を北溟寮で過ごす。東北大学農学部卒、同大学院（旧制）修了後、東北大学抗酸菌病研究所に31年。うち昭和41年

から農学部助教授を併任。

研究は専ら「酵素」が相手。材料はカイコ、ラット、ヒト、癌細胞、海藻、酵母、結核菌、

生物資源科学科 長山 英男

マイコプラズマ、イモチ菌と動・植・微生物にわたる。今度は園芸産物（応微）という次第。

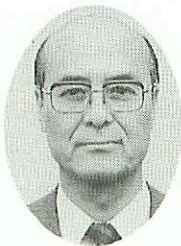
昨年8月、44年ぶりに戻った弘前の地。北溟寮は今や構内になく、代わりに松籟の下に立つ“弘高生青春の像”。かつて夕霧のリンゴ畑の中を散歩した富田は人家に埋まり、「かくは」はハイローザと変わった。しかし、お城も、お山も、そして人情も変わらない。どうぞよろしく。



1938年仙台で生まれ、1964年東北大学大学院を卒業終了後、茨城大学農学部就職しました。1990年4月、弘前大学農学部へ転出し微生物工学を担当することになりました。

生物資源科学科 浅田 芳宏

この間、微生物（細菌）による物質生産とその制御機構などの研究をしてきました。今後は研究環境造りをしながら、研究と学生の教育を確実に前進させたいものです。特に本州の北端にいても学問の進展に対応できるように努力したいものです。



旭川出身、昭和35年弘大農学部卒業。本年4月に30年ぶりで古巣へ帰ってきました。その間、青森県畜産試験場で一貫して草地飼料部門で Soil-Plant-Animal Relationship の観点から牧草の無機組成改善に関する研究を行ってきました。昭和54年に東京農大より学位取得、平成元年度には学位論文を中心とした業績により日本草学会賞を受賞しました。

30年ぶりの弘前はすっかり変わってしまし

附属農場 野村 忠弘

だが、それでも農学部の周辺や街の片隈には昔日の面影があり、青春時代を思い出させてくれました。約半日、下宿から学校へのコース、街の中などをほっつき歩きましたが、当時の仲間の顔が何人か浮かんできました。

自宅（青森市内）から藤崎町（附属農場）、弘前（学部）、金木町（附属農場）とマイカーで走り回っている関係もあって、予期に反して暇というものがないのが残念です。

教育・研究もさることながら、県庁OBとして、地域農業とのかかわり合いも深めていきたいと思っています。



1953年、岐阜県高山市生まれ。学部・大学院・ODと13年間北大にお世話になりました。その後、4年間岡山大学の教養部で経済学を担当した後、今年の4月に農学部の農産物流通論講

座に着任しました。

これまでは、農産物市場を歴史的な視点から考察することを中心に研究を進めて来ており、農産物貿易摩擦、食管理制度に強い関心をもっています。ただし、これからはリンゴの

農業生産科学科 玉 真之介

流通や出稼ぎ問題といった地元の問題も追求してゆきたいと考えております。

弘前は大学からの岩木山の眺めに感激し、一目で好きになりました。お城の桜、リンゴの開花も期待通りでした。今は、ねぶたを楽しみにしております。家族も、落ち着いた環境に満足しております。

こうした恵まれた環境の中で、日本農業の抱える様々な困難を学生達と一緒に大いに論議し、見極め、展望を見いだしたいと考えています。どうぞよろしく申し上げます。



今年4月に着任しました。この3月まで札幌市郊外にあります北海道立中央農業試験場生物工学部で、植物の遺伝子工学を専門として仕事を行ってきました。

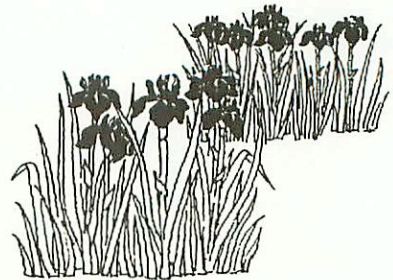
これからは、遺伝子組換え技術を駆使し、遺伝子導入による植物の形質転換などの研究を進めたいと考えておりま

農業生産科学科 原 田 竹 雄

す。

40年間北海道におりましたので、こちらにまいりまして様々な歴史、文化の違いというものを発見しております。特に岩木山と弘前城の桜の美しさには感銘を受けました。毎日の学生とのふれあいで、妙に自分の学生時代が思い出されるこの頃です。

どうぞよろしく申し上げます。



事務局からのお知らせとお願い

その1

住所録の充実についてご協力をお願いします。現在、これまでの卒業生総数3,013名分の会員名簿とその住所をコンピューターに収録し、管理することを業者へ依頼しております。2年に1度の名簿作成のほか、日ごろ会員との連絡に大量のアドレス書きにかえて、メールステッカーの引出しにも利用しております。

しかし転勤や転職で住所が変更しても、事務局への届出が少ないため、発送した郵便物が「差出人宛先不明」で戻る場合が多く、郵便料の無駄づかいにもなっております。

また今年の暮れに、2年に一度の同窓会名簿が発行されます。名簿を充実させるためにも、住所、氏名、職場等変更のあった方は、同封の変更届ハガキで早めに同窓会事務局宛ご連絡下さるようお願いいたします。

その2

会費の未納が多くなってきており、同窓

会活動にも支障を生じかねない状況にあります。平成2～3年度会費を同封の振替用紙で早めに送金して下さいようお願いいたします。

なお今年末発行の同窓会名簿は会費納入者のみに配布されますのでご了承下さい。

その3

同窓通信をご利用下さい。各地同窓生の近況紹介、気候話題、トピックスなどの情報交換、その他、同窓網を活用した情報提供取得に同会報を利用してはいかがでしょうか。投稿をお待ちします。

その4

平成2年度は元年度に引き続き、総務 戸次英二（内線4752）、会計 工藤啓一（内線4663）、情報 村山成治（0173-53-2029）の体制で、総会において承認された諸事業を的確に進め、事務処理にあたりますので、よろしくご協力をお願いします。

同窓会報の編集についてのご意見もどしどしお寄せ下さい。